

（午後2時00分 再開）

○議長（中本正人君）休憩前に引き続き、会議を開きます。

日程に従い、一般質問を行います。

順番4、5番 坂口君。

〔5番（坂口親宏君）登壇〕

○5番（坂口親宏君）皆さん、こんにちは。一般質問のお昼下がり、お昼を挟んでおりますので、少し眠気が来るかもしれませんが、議員2年目、眠気を吹き飛ばせるように一生懸命に質問をしておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それと、まずこの場をお借りしまして、皆さまにご報告と御礼がございます。先週の金曜日でしたか、朝からパソコンの前に座りまして、インターネットテレビ中継を見ておりました。岐阜市議会の一般質問の二日目、信田議員がこんな質問をしておりました。信じるに田んぼと書いて信田議員です。

NHKの朝ドラ、橋本市と連携をして協力体制をつくっていきたく、このような一般質問をされておりました。当局からも非常にいいご答弁をいただいております。ぜひ、橋本市と連携をして、朝ドラを誘致していきたい。前畑秀子さんの物語をNHKの連続テレビ小説として、2020年東京オリンピックまでに放送してもらえるように、橋本市と全面的に協力をしてやっていきたいと、当局からも非常に力強いご答弁をいただいております。

私も早速、信田議員に御礼のお電話をさせていただきました。

そして、もう一つ、皆さまに御礼がございます。先日、その朝ドラ誘致実行委員会というものが立ち上がりまして、各会派から、議

員の皆さんからも1名委員を選出していただきまして、一般公募、そして各団体あわせて37名の委員が顔をそろえました。これで、市長がおっしゃるように、オール橋本で朝ドラを誘致していこうという体制ができ上がりました。

そして、先ほども申し上げましたように、岐阜市との連携。当初、本当に宝くじを買うようだという、そういうことを申し上げましたけれども、非常にハードルが高い、厳しい確率だというふうに申し上げたんですが、このようなオール橋本、そして、岐阜市との連携ができ上がりましたので、宝くじではなく、商店街のがらがらぼんのような、そんな確率になってきたんではないかと思っています。

いずれにしても、まだまだハードルは高い、この朝ドラの誘致です。2020年の東京オリンピックまでに何とか誘致をしていく。朝ドラジャンボ宝くじと、私はずっと申し上げております。当選発表は2018年の春、あるいは秋頃までに、市長室にNHKの東京のドラマ制作部から吉報が届くんじゃないかと思っています。

なお、お買い求めいただきました宝くじ券は、当選発表まで大切にお持ちいただきたいと思っております。決してお捨てになりませんように、くれぐれもお願いを申し上げておきます。

それでは、議長のお許しを既にいただいておりますので、通告に従いまして一般質問をさせていただきます。

今回の質問項目は1項目でございます。手短かに済ませますので、しばらくの間、ご辛抱をお願いしたいと思います。

本市に大学、あるいは大学のサテライトキ

キャンパス、その誘致の可能性があるかどうか、過去の経緯や現在の諸条件などを鑑みながら、今後の本市の方向性を伺っていきたいと思います。

まず、小さい項目の一つ目、本市で大学や学部、研究所などの大学の附属施設、あるいは大学のサテライトキャンパスなどを誘致しようとする動き、試みはこれまであったのかどうか。あったのであれば、誘致に至っていない現状を見て、どのような障害があったのかも、あわせてお答えいただければと思います。

和歌山県でも地方創生に関連し、専門職業人の育成校などの大学の新設に向けまして取り組んでいこうという、そんな姿勢を見せているんですが、これに合わせ本市でも、大阪へのアクセスの利便性など地域性を生かし、大学誘致に向けて積極的なプロモーションができないかどうか、当局の方向性をお示しく下さい。

また、大学誘致に伴う本市におけるメリット・デメリットについても、どう分析をされているのか。かかる経費・経済効果を鑑みながら、大学誘致について本市はどのような構えをとるのか、中長期的なビジョンがあればお示しく下さい。

それから、小さい項目の二つ目、西部中学校校舎の跡地利用について、防災や地域のコミュニティの拠点となるよう、さまざまな提案がなされているんですが、現有の校舎の一角のスペースでも生かし、誘致する可能性があれば、サテライトキャンパスや大学附属施設などとして利用することは、現段階の跡地利用計画の選択肢の一つとして考えられ得るのかどうか、その可能性をお示しいただきたいと思います。

私の質問、非常にシンプルでございます。ぜひ、明確なご答弁をお願いしたいと思います。

す。

○議長（中本正人君）5番 坂口君の、本市に大学あるいは大学のサテライトキャンパス誘致の可能性に関する質問に対する答弁を求めます。

企画部長。

〔企画部長（北山茂樹君）登壇〕

○企画部長（北山茂樹君）まず、本市において大学や学部、関係する附属施設、サテライトキャンパス等を誘致する動き・試みはこれまであったのかについてお答えします。

旧橋本市において、さかのぼること昭和48年に策定された第1次長期総合計画で、目標年次を昭和60年、計画人口を15万人とした田園都市構想により、進学希望者の受け皿を構築するべく、高等教育の拡大や女子短期大学の誘致を強力に推進するとしており、この考え方は、これに続く第2次長期総合計画においても、ほぼ同様に位置付けられていました。

さらに、平成8年策定の第3次長期総合計画でも、まちづくりの基本目標の一つとして、「優れた文化に触れ、教養を高め、スポーツに親しむ生きがいのまちづくり」を掲げ、女子大学にとらわれず、既設大学の移転とともに単科大学や短期大学、高等専修学校、専門学校等の誘致に取り組むこととしていました。

当時の時代背景としては、既に全国的に少子化傾向にあり、「大学冬の時代」と呼ばれる厳しい社会状況ではあったものの、平成12年4月に、日本WHO協会から、健康科大学誘致に係る本市の意向について打診があり、当時、大学新設を進めていた学校法人清教学園を小峰台に誘致する計画が持ち上がりました。市としても、未来を担う人材の育成、地域の活性化、生涯学習の推進、市民に開かれた魅力ある大学を期待し、大学誘致のための計画変更や用地取得、建設等に係る財源の確保に奔走しました。

しかしながら、2年後の平成14年8月、本市に対し、学校法人清教学園から「学生募集の見通しが未知数で、設立後の経営困難」を理由に大学設置計画を断念する申し入れがあり、これを受けて、本市としても誘致計画を中止せざるを得なかったという経過がありました。

次に、県の地方創生に関連させて、本市の特性を生かした大学誘致のプロモーションができないかについてお答えします。

先日6月8日に、和歌山県まち・ひと・しごと創生総合戦略が策定され、その基本目標として、和歌山県への新しい人の流れを創造するとして、「和歌山で学ぶ」という項目において、県は高等教育機関の充実をうたい、とりわけ地域医療を支える専門職として技術を身につけ、卒業後も県内定着が期待できる薬学部の設置を進めるとともに、看護大学の誘致推進を掲げています。

現在、和歌山県内の高校から県外の大学へ進学した学生の割合が全国で最も高い数値となっており、大学入学時における若者の都市部への流出に歯どめをかけることは、大変重要であると認識していますが、県の総合戦略に合わせ、仮に県が主体となり本市に大学を誘致するというのであれば、これに合わせたプロモーションについては検討していきたいと考えています。

なお、本市としては、先ほどご答弁した過去に学んだ経験から、大学誘致には相当な財政的負担を伴うことがわかっており、慎重な検討が必要であると考えています。

最後に、本市が主体となり、大学誘致を行う場合の経済効果と誘致の判断について、お答えします。

まず、誘致のメリットについては、一つ目として、大学建設工事に関係する雇用をはじめとした経済波及効果が挙げられます。二つ

目として、自宅から通学・通勤する学生・教職員の消費効果、三つ目として、下宿する学生の消費効果、四つ目として、大学の運営に対する地元雇用等が考えられます。

また、経済効果以外においても、若者が集まり、市内で生活をしていく中で、地域コミュニティに溶け込み、橋本の魅力に触れてもらえれば、地域の活性化・若返りにもつながっていくことになろうかと思えます。

次に、誘致のデメリットについては、一つ目としては、用地取得費の負担、二つ目としては建設費の一部負担、三つ目として、運営費の一部負担の可能性に加え、四つ目として、アクセス道路整備や地域公共交通の整備が求められる可能性もあります。

以上のことから、大学誘致の経済的メリット・デメリットを踏まえた判断については、大学誘致は経済波及効果が大きく、地域経済の活性化につながるものの、先行して必要な費用も莫大であり、現在の本市の財政的な体力から鑑みれば、そうした投資に耐えられる状況ではなく、また、全国的に少子化が進む中で、国においても大学の新設は容易に認可されないと考えます。

なお、本市においても本格的な人口減少、少子高齢化を迎えるにあたり、公共施設の利用需要が変化していくことを踏まえると、長期的な視点に立った公共施設等のマネジメントが必要になります。今後、施設の統廃合により用途廃止した公共施設等を有効利用するなど、資産・債務改革に取り組んでいくことが重要であり、このような視点から、例えば、大学のサテライトキャンパスとして利用いただくことは、地域の活性化というメリットと財政負担というデメリットを総合的に勘案した中で、検討することは可能であると考えます。

○議長（中本正人君）教育次長。

〔教育次長（坂本安弘君）登壇〕

○教育次長（坂本安弘君）西部中学校の跡地について、大学のサテライトキャンパスや附属施設として利用できないかのご質問にお答えします。

現在、平成28年4月の3中学校統合に向けて、細部の調整及び準備作業の段階に入っているところです。その中で、学文路中学校と西部中学校については、移転後の跡地利用の問題もあわせて検討しているところです。

西部中学校跡地については、現時点では具体的な案は固まっていますが、地元の要望にできるだけ沿った利用計画案を検討し、統合準備会と協議していきます。

また、学文路中学校跡地につきましては、既に利用計画案が固まっています。具体的には、こども園と公民館に活用していく予定であり、西部中学校跡地についても、できるだけ早い時期に計画案を示していきたいと考えています。

ご質問の、西部中学校校舎の跡地への大学のサテライトキャンパス誘致については、一定の期間をかけながら進めていく必要があります。このため、早期に取り組む必要のある西部中学校跡地利用の選択肢としては、困難であると考えます。

○議長（中本正人君）5番 坂口君、再質問ありますか。

5番 坂口君。

○5番（坂口親宏君）ありがとうございます。非常に明確なご答弁をいただきまして、ありがとうございます。よくわかりました。

一つ、質問をさせていただきます。先ほど、部長がおっしゃいました、他県へとおっしゃったんでしょうか。他県へ進学する数字が非常に高いというようなお話がございました。この数字は、何パーセントぐらいになっていますでしょうか。あるいは、高いとおっしゃ

ったのは、それは全国最高に高いのか、あるいは近畿で高いのか、対象の比較がおっしゃっていませんでしたので、その部分がよくわかりませんでした。お答えいただければと思います。

○議長（中本正人君）企画経営室長。

○企画経営室長（上田力也君）ただ今のおたがしでございますが、答弁しましたのは、県内の高校から県外の大学へ進学したというふうに答弁をさせていただきました。また、県外への学生の割合が全国で最も高い数字ということにつきましては、押さえている数値といたしましては86%というところがございます。そして、この86%というのは、全国で一番高いというような状況になっております。

以上です。

○議長（中本正人君）5番 坂口君。

○5番（坂口親宏君）よくわかりました。大変丁寧な解説をいただきまして、ありがとうございました。

その中で、やはり和歌山県は自県への大学の進学率が最も低い。逆に言うと、全国で最も低いと。これはどういうところに理由があるかといいますと、当然、和歌山県内に大学がないからだというふうに思っています。

私も議員になってから、ずっと申し上げております。若い人たちが、特に優秀な若い方は、東京や大阪に進学をしていく、そして、そのまま東京・大阪の企業に就職をして、なかなかこのふるさと和歌山県に戻ってきてくれない。あるいは、橋本市に戻ってきてくれない。であれば、やはり自県に、この和歌山県に大学をつくりたいという、これ、和歌山県議会の12月議会、昨年12月議会で中村議員がこんな質問をしていますね。大学誘致について。私と同じような質問をしているんですが、その中の答弁としまして、仁坂知事は県立医科大学に薬学部をつくりたいと積極的に

発言をされていらっしゃるということで、先ほど部長のご答弁もありましたように、専門職業人の育成校であれば可能性がある。民間でやっていただける可能性があれば大いに結構ですけれども、県立医科大学の薬学部の設置の可能性について、内部的な検討を前向きに進めていく。このように仁坂知事ははっきりと、これはつくとおっしゃってるんですね。

2月に県薬剤師会からも陳情等、署名等が県知事に出されておまして、仁坂知事は、これはもう前向きにどころか、つくとおっしゃってるんです。今、先ほどおっしゃったように、この県立医科大学の薬学部なんですが、進捗状況としては、つくとおっしゃっている。ご答弁もいただきました。進捗状況としては、現段階でどこまで進んでいるのか、そのあたりを、もしご存じでしたら教えてくださいたいと思います。

○議長（中本正人君）企画部長。

○企画部長（北山茂樹君）そこまでは把握できておりません。

○議長（中本正人君）5番 坂口君。

○5番（坂口親宏君）そうですか。ぜひ把握をして、情報収集をしていただきたいと思います。

当初、この県立医科大学、和歌山市内の伏虎中学校の跡地に建設をするというようところで、県と和歌山市が調整を進めていたようです。最近になりまして、この伏虎中学校の跡地に和歌山の市民会館、これがかなり老朽化して、耐震設計になっていないので、伏虎中学校の跡地に和歌山の市民会館を建設をする、これがほぼ決まっているようです。

ですが、今、部長おっしゃったように、この薬学部については、当初、この伏虎中学校の跡地に建設をするというような強い意欲を見せていたんですが、和歌山市の尾花市長も

強い意欲を見せていたようなんですが、これが今、宙ぶらりんになってますね。頓挫したとまでは申し上げにくい状況ですが、和歌山の市会議員と、そして和歌山市の当局からも情報をヒアリングしておりますが、間違いのない情報だと思います。

これは何が原因かという、市の中心部に薬学部をつくるというのは、劇物・毒物を取り扱う学問ですので、なかなかつくりにくい。それと、先ほど申し上げましたように、市民会館を建設するというのが既に決まっていますから、その市民会館と抱き合わせに、あの狭い伏虎中学校の跡地に建設をするという選択肢は、なかなかとりにくい。であれば、この薬学部をどこにもってくるかというところは、当然、和歌山市は調整をしていると思うんですが、コンパクトシティをめざすという尾花市長の構想から、できるだけ和歌山城を中心につくりたいというお気持ちだそうですが、なかなかそういうわけには進んでいかない。

であれば、僕はもうずっと申し上げてるんですけれども、この橋本市も手を挙げてはどうかと申し上げたいんですが、政府がずっと、まち・ひと・しごと創生総合戦略、この中で、本市も大学誘致に向けて、その選択肢をとりながら、手を挙げるその、いわゆるファイティングポーズ、環境整備をつくっていかないと、なかなか手を挙げたことにはならないと思うんですけれども、副市長、いかがでございましょうか。まだチャンスはあると思うんですが、これ、自治体も競争だと思うんですよ。和歌山市に遠慮していたら、これ、橋本市も大学、先ほど部長もおっしゃったじゃないですか。大学を誘致することによる経済波及効果はおっしゃっているわけですから、和歌山市も薬学部、なかなか今、宙ぶらりんの状態ですから、橋本市は岩出、あるいは紀

の川よりもずっとチャンスがあると思いますよ。ここで、手を挙げて、しっかりと大学誘致に向けてファイティングポーズをとるとするのは、非常に大切だと思います。

それともう一つ、仁坂知事は、2021年の3月ぐらいに大学の新設をめざしたいとおっしゃっています。ですから、あまり時間がないんですよ。ここは、しっかりと行政側でご判断いただいて、よし、ここで橋本市は県立医科大学の大学の薬学部の誘致に向けて、本腰を入れてファイティングポーズをとる。これ、ファイティングポーズをとると言い方はあまり適切ではないですね。環境整備をしながら、大学誘致に向けてしっかりと手を挙げると。まち・ひと・しごと総合戦略の一つとして、本市としても大学誘致に向けてしっかりと取り組んでいくと。こういう構えをとるとするのは、この時期、非常に大事だと思うんですが、副市長、いかがでございましょうか。

○議長（中本正人君）副市長。

○副市長（森川嘉久君）最終的な意思決定というのは私ではございませんので、ちょっとこの場でどうというのはなかなか難しい点があるところがございますけれども、薬学部の件に関しましては、議員おっしゃられたように若干情報は持っておったんですが、ちょっと頓挫したというところまでは聞いておりませんでしたので、新しい情報をご提供いただきまして、本当にありがとうございます。

ただ、一番初めのご答弁でも申し上げましたように、過去に大学の誘致に関しては、いろんなお話があったのも事実でございますし、ご答弁申し上げなかった部分でも、その後もいろんな専門学校でありますとか、そういうことについても、ちょっと水面下でいろんなお話があったのは事実でございますが、若干なかなか条件面の折り合いでありますとか、

少子化の中での大学の認可、専門学校の認可の件でありますとか、なかなか難しい点がありまして、実現には至っておらないのが事実でございます。

ただ、県立の医科大学ということになりますと、財政負担の面については県で、私立の大学よりは有利な形に、知事のご判断になるわけですが、していただけるようなことであるならば、本市におきましても企業誘致用地等もあいている土地もございますので、積極的に働きかける条件はあるのかなというふうには思います。

ただ、最終的に、県のちょっと東北端というような立地的条件というのは、比較的県を中心から見られてどうかというような、若干不利な点もあるかとは思いますが、手を挙げるということに関しては、議員おっしゃられるとおりに、一度考えてみてもいいのかなというふうには思います。

これは、私の今の、現時点での私見でございますので、市長ともいろいろとお話をさせていただいて、最終的には、市長が知事に働きかけていくということになるかというふうに思います。

○議長（中本正人君）5番 坂口君。

○5番（坂口親宏君）副市長、ありがとうございました。前向きなご答弁だというふうにご受けとめさせていただきます。まだ、企業誘致用の土地もあるということで、本当に自治体間、これは競争ですから、和歌山市に遠慮する必要は全くないと思います。

頓挫している。これは、語弊があるかもしれませんが、今、本当に宙ぶらりんな状態、伏虎中学校の跡地に市民会館と薬学部を併設してつくるというのは、和歌山市にとっては非常に今厳しい状況だというふうに聞いております。ぜひ、ここは早く、一刻も早く手を挙げていただいて、県に調整をしながら、県

からしっかりとお金を頂戴しながら、橋本市の土地に県立医科大学の薬学部をつくれるように、ぜひ働きかけていただきたいと思います。

最後に市長、いかがでございましょうか。今、提供させていただいた情報をもとに、何とか県と連携をとっていただきながら、橋本市に県立医科大学の薬学部、この話をぜひ進めていただけるようお願いしたいと思んですが、市長のお考えはいかがでございましょうか。

○議長（中本正人君）市長。

〔市長（平木哲朗君）登壇〕

○市長（平木哲朗君）坂口議員の質問にお答えをします。

今、副市長がお答えしたとおりでありますので、これ以上、何も言うことはありません。

ただ、和歌山県立医科大学の関係ですので、本当に本校とこれだけ離れたところにつくっていいのかというような問題もあろうかと思えます。教授、学校の先生方を、そしたらここまで移動さすのかというふうな問題もあろうかと思えますし、また、一応、伏虎中学は頓挫したんかもわかりませんが、尾花市長の話によりますと、なかなかそういう話はないという、また詳しいこと聞いておりませんので、ここで簡単に橋本市へ持ってくるという話もできません。

やはり、どれだけの費用がかかるかという問題やと思えます。今、残っているのは南海の持っている用地ぐらいですので、非常に地価も高い。そういうところで、果たして採算的に合うのかというふうな問題もありますし、これは、ある意味、情報収集をしながら、そういうタイミングになれば知事への働きかけもしていきたいと思えますし、高野山大学の

教育学部の問題もありますので、なかなか知事のほうも、高野山大学の県外移転に対しては反対をしておりますし、逆に、橋本市で受け入れせえというふうな事態にもなりかねません。これにつきましては、本当にいろんな問題を抱えてますので、そう簡単に誘致に手を挙げていくというのは、非常に厳しい。

そして、財政的に考えますと、橋本市の場合、まだ大きな、近々で言えば給食センターを建て替えらなあかん、応其小学校の改修もしていかなあかん、これから財政的にどうやって財源を確保するのかという問題もありますし、企業誘致用地も90%以上売れましたので、あと次の開発となりますと、恐らく十数億のお金がまた要ってくるというふうなこともありますので、そういう中で政策判断をしていくと。どれが橋本市にとってプラスになっていくかというふうなことを判断しながら、現在、優先順位を決めながら進めていきたいと思っています。

○議長（中本正人君）5番 坂口君。

○5番（坂口親宏君）ありがとうございました。

いろいろな条件が整いませんと、なかなか進まない話だと思います。ですが、橋本市の活性化のために、ぜひまたこういった話も市長、副市長の頭の隅に置いていただけますように、そんな質問をさせていただきました。

以上で、私の一般質問を終わらせていただきます。

ありがとうございました。

○議長（中本正人君）5番 坂口君の一般質問は終わりました。